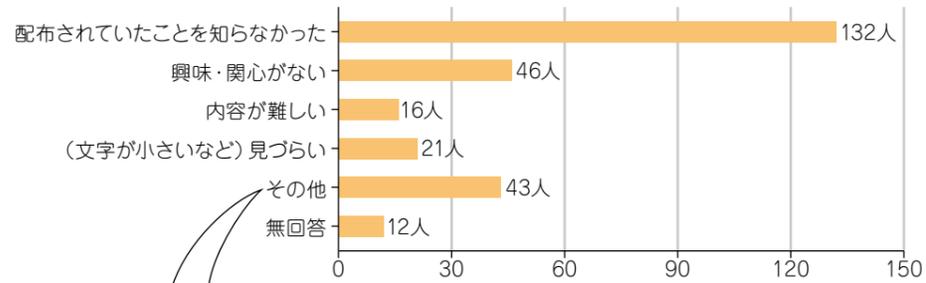


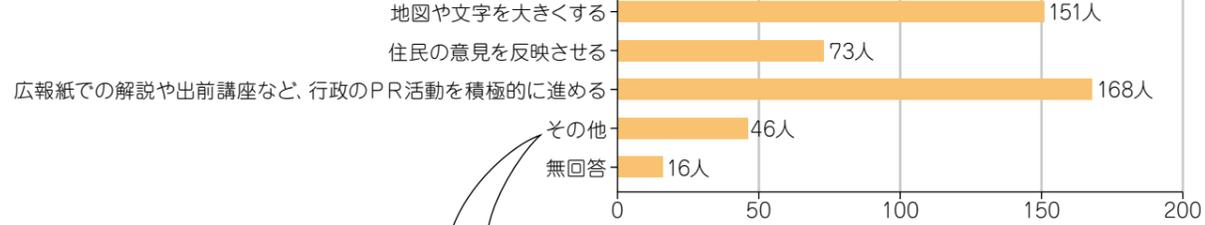
問4. 「播磨町総合防災マップ」を知らなかった（活用しなかった）理由を教えてください（複数回答可）



問4の「その他」の意見より抜粋

- 活用する機会がなかった
- あまりにも多くの情報が記載されていて見る気がしない
- 時間がなかった
- その時だけで日時の経過とともに頭にない

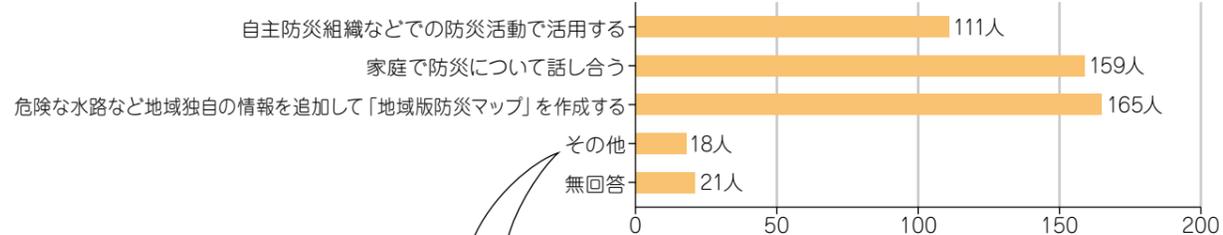
問5. 今後、「播磨町総合防災マップ」をより活用しやすいものにするためには、どのような改善や取り組みが必要だと思いますか？（複数回答可）



問5の「その他」の意見より抜粋

- 地図上の色分け(注意・警報など)が分かりにくい
- 無料配布を年1回程度、防災マップの解説書を付けて行う
- 考えながら見るのではなく、一見してわかるような工夫をしてほしい
- 財布に入る(折りたたんでも)大きさで作る。またはスマホでアクセスできるサイトを作り、QRコードで登録しておいてもらう。町内の数カ所に看板で掲示(紙でなく鉄製)

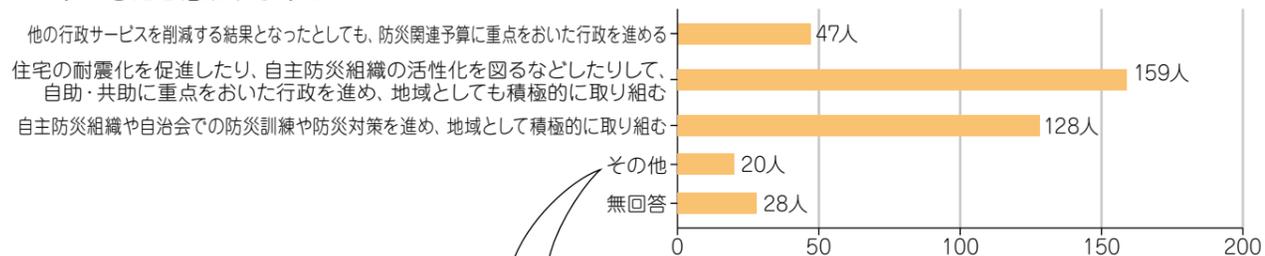
問6. 今後、「播磨町総合防災マップ」を活用するためには、家庭や地域でどのような取り組みが必要だと思いますか？（複数回答可）



問6の「その他」の意見より抜粋

- 防災訓練を行う
- 各自治会で防災についての話し合いが必要
- 一世帯一人必ず出席するような集まりを開いて説明してほしい
- 近隣で話し合う(班とか自治会により小さい範囲で)
- 個人の災害に対する意識改革と自治会単位での防災に関する勉強会を行う
- 実際の避難経路を歩いて、実際の距離感や時間及び危険箇所の把握
- 津波に対して地域単位の高所造りを実行してほしい

問7. 安全・安心のまちづくりを進めていく上で、自助・公助の一層の充実は不可欠といえますが、あなたはどのようにすべきだと思いますか？



問7の「その他」の意見より抜粋

- 水や食品など、できれば町で貯めておくことができるとよい(水は地下水などを使用できる仕組み作りなど) 個人の家庭の狭さで7日分の水、食料の備蓄は無理
- 大中遺跡まつりに避難訓練を取り入れて啓蒙したのはよかった。今後は、避難訓練だけの日を作って、大規模な訓練してほしい
- 近いうちに来るだろうとは思っていても大丈夫だと思っている自分の考えを改めないとだめだと思う
- 自治会活動を深め、隣人関係を深めることも大切だと思う。18歳以上の男女の防災活動を推進勧誘してみたいと思う
- 私の自治会が高齢化しているので自主防災組織は機能しないと思うので近隣自治会との連携を高めておく必要があると思う

住民意識アンケート調査結果報告
～播磨町総合防災マップについて～

▶問合せ 住民意識アンケートについて 企画グループ ☎079(435)0356
 播磨町総合防災マップについて 危機管理グループ ☎079(435)0991

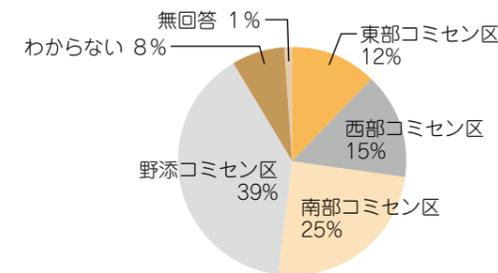
播磨町では、「住民参加のまちづくり」をより一層進めるため、皆さまからご意見やご提言をいただく「町政モニター」事業を行っています。

今回のアンケートでは、平成22年3月に全戸配布いたしました「播磨町総合防災マップ」の認知度、活用方法などについてお伺いしました。このアンケートは、新たな津波被害想定などの公表が予定されていることを受け、今後「播磨町総合防災マップ」を更新する際に、より活用しやすいものとするために必要な施策を検討する基礎資料を得ることを目的として実施しました。

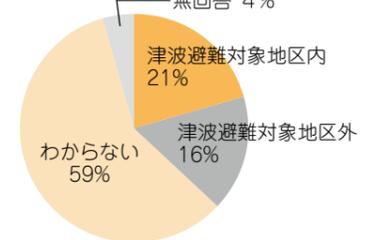
播磨町在住の20歳以上の方の中から無作為に抽出した1,000人の方に送付し、348人の方からの回答をいただきました。アンケート調査の結果から一部を抜粋してお知らせします。

あなたご自身についてお伺いします

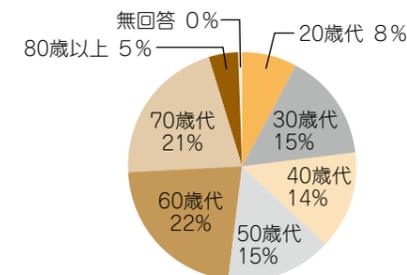
問A. あなたのお住まいは、どのコミセン区ですか？



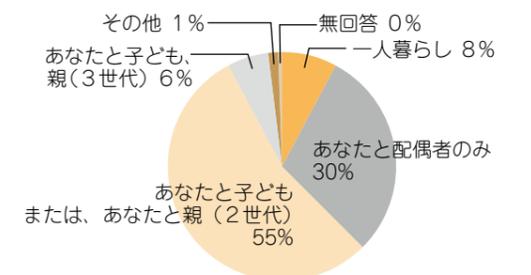
問B. あなたのお住まいの地域は、次のいずれに属していますか？



問C. あなたの年代を教えてください

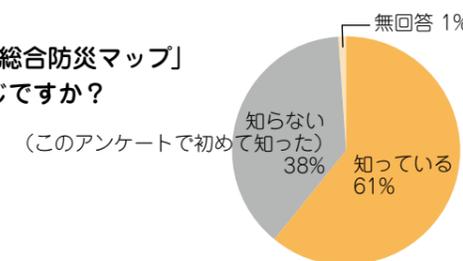


問D. あなたの家族構成を教えてください

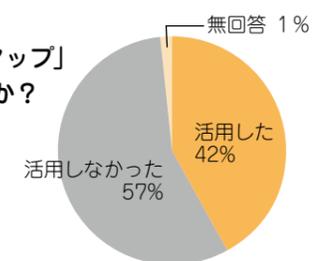


「播磨町総合防災マップ」についてお伺いします

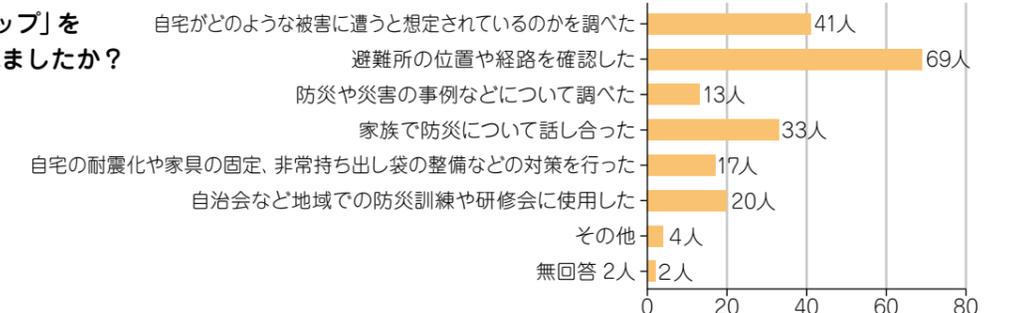
問1. 「播磨町総合防災マップ」をご存じですか？



問2. 「播磨町総合防災マップ」を活用されましたか？



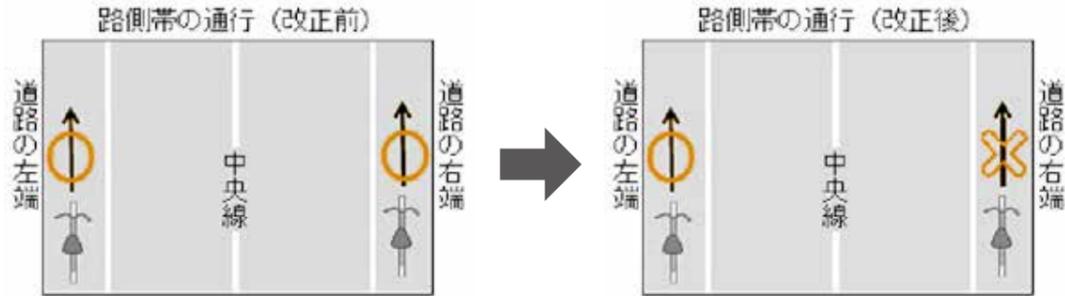
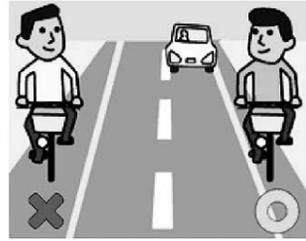
問3. 「播磨町総合防災マップ」をどのように活用されましたか？



道路交通法の一部改正 (平成25年12月1日施行)

▶問合せ 加古川警察署 ☎079(427)0110

自転車は、著しく歩行者の通行を妨げることとなる場合及び歩行者専用路側帯を除き、路側帯を通行することができますが、今回の道路交通法の改正で、自転車が通行できる路側帯は、**道路左側に設置された路側帯のみ**となりました。

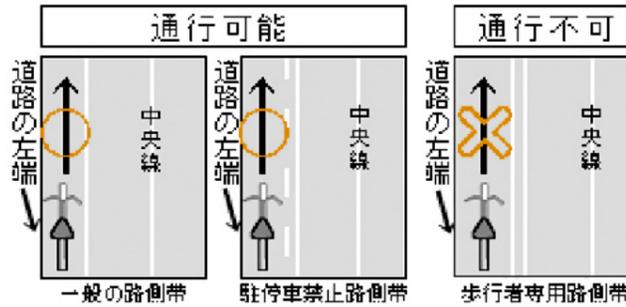


右側に設置された路側帯を通行した場合、道路交通法第17条第1項の違反(3月以下の懲役または5万円以下の罰金)の対象となります。

路側帯と外側線(区画線)の違い 道路上の標示については、歩道の有無によって異なります。歩道が設置されている場合は外側線、歩道がない場合は、原則、路側帯となります。

●路側帯(根拠: 道路交通法第2条第1項第3号の4)

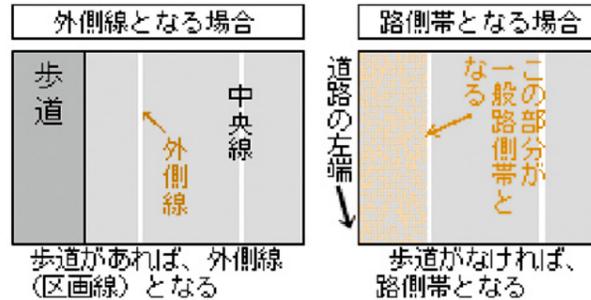
歩行者の通行の用に供し、または車道の効用を保つため、歩道の設けられていない道路または道路の歩道の設けられていない側の路側寄りに設けられた帯状の道路の部分で、道路標識によって区画されたもの。



●外側線(区画線)

(根拠: 道路法第45条、標識表示令第5条及び第6条)

道路管理者が、道路構造の保全または道路の交通安全と円滑を図るために設ける道路標示。



- ▼問合せ 危機管理グループ ☎079(435)0991
- 夕暮れ時の交通事故防止
- 飲酒運転の根絶
- 全ての座席のシートベルトとチャイルドシートの正しい着用の徹底
- 自転車の安全利用の推進特に、自転車安全利用五則の周知徹底

- ▼運動の重点
- 自転車の安全利用の推進特に、自転車安全利用五則の周知徹底
- 全ての座席のシートベルトとチャイルドシートの正しい着用の徹底
- 飲酒運転の根絶
- 夕暮れ時の交通事故防止

この運動は、広く交通安全思想の普及・浸透を図り、交通ルールの遵守と正しい交通マナーの実践を習慣付けるとともに、住民自身による道路交通環境の改善に向けた取り組みを推進することにより、交通事故防止の徹底を図ることを目的とします。

「交通事故死ゼロを目指す日」

4月10日(木)

「交通安全意識を高める日」

4月6日(日)

「交通安全意識を高める日」

4月6日(日)～15日(火)

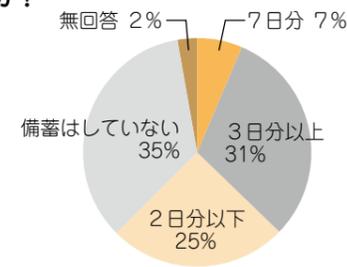
全国交通安全運動



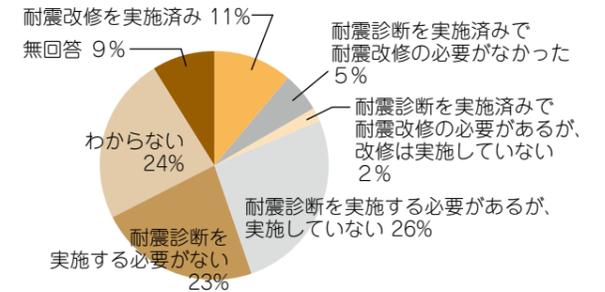
春の

日ごろの備えについて

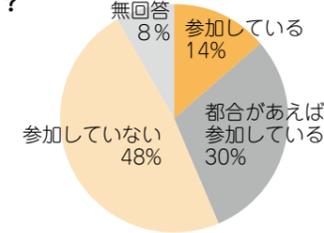
問8. 現在のあなたのご家庭では何日分の備蓄をしていますか?



問9. お住まいの耐震化は実施されていますか?



問10. 地域や町が実施する防災訓練には参加されていますか?



自由記述欄に書かれていたものを、抜粋

- 役場からのアナウンスなどが聞き取りにくい。風向きによっては、アナウンスが聞き取りにくい
- 避難訓練では大中遺跡コースで、沿岸部の住民にしてみたら現実的ではありません。土山周辺は立派になりましたが、沿岸部の危機管理はなおざりになっている感が否めません。備蓄はしましたが、住民自身がやれる事には限界があります
- 学校などとタイアップして、地域防災マップを作るなど、実際に子どもたちが遊んでいる時にも自分の身を守るように、行政と協力して、身近な問題として防災が根づくと思う
- 防災関連の表示している看板が少ない。歩いていても、どこでもすぐに見えるぐらい表示しても良いと思います

ご協力、ありがとうございました。住民意識アンケート調査結果報告の全文は、町ホームページで公表しています。

防災コラム ①地震って起こらないかもしれないんですね?

▶問合せ 危機管理グループ ☎079(435)0991

結論から言うと、地震の大きさや震源は定かではありませんが、残念ながら地震はいつか必ず起こります。

このようなご質問の背景には、地震の発生確率の数値が独り歩きしてしまい、あたかも宝くじの当選確率と同じように受け止められているように思えます。

しかし、これは地震の発生確率の計算の仕組みを知ると、すぐ誤解にお気づきいただけると思います。そこで、架空の地震の発生確率を計算してみることにします。この架空の地震はおよそ100年間で発生しているものとし、2014年4月1日現在で前回の地震からおよそ50年程度経過しているものとし

ます。次回の地震の発生確率は、前回の地震から100年後が最も可能性が高く、そこから離れるにしたがって、図の曲線のように、だんだんと低くなっていき、山なりの曲線となります。

図1のAの部分の面積は、いまから30年後までに地震が発生する確率です。また、Bの面積は、30年後以降に地震が発生する確率です。これから30年以内に地震が発生する確率は、Aの面積を、AとBを足した面積で割ることで算出されます。

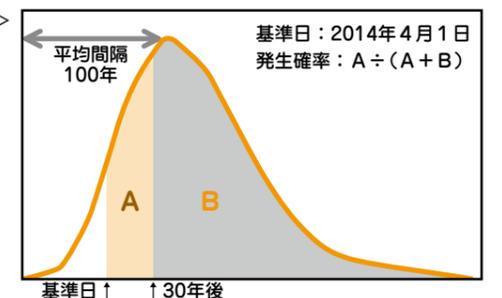
次に、同じ地震で、30年後を基準日とし、その時点からさらに30年後までに地震が発生する確率の計算もおなじですが、Bの面積が小さくなるため、

図1の時よりも確率は大きくなります。

従って、地震の発生確率というものは、今日よりも明日のほうが高くなり、本質的には地震が発生するまでのカウントダウンに近いと思います。

地震はいつか必ず起こります。それに備えるために私たちができることは、住まいの耐震化、家具の固定、食料や日用品の備蓄などという地道な努力ではないかと思えます。

<図1>



<図2>

